

ジェネリック医薬品使用促進に向けた加入者等意識調査

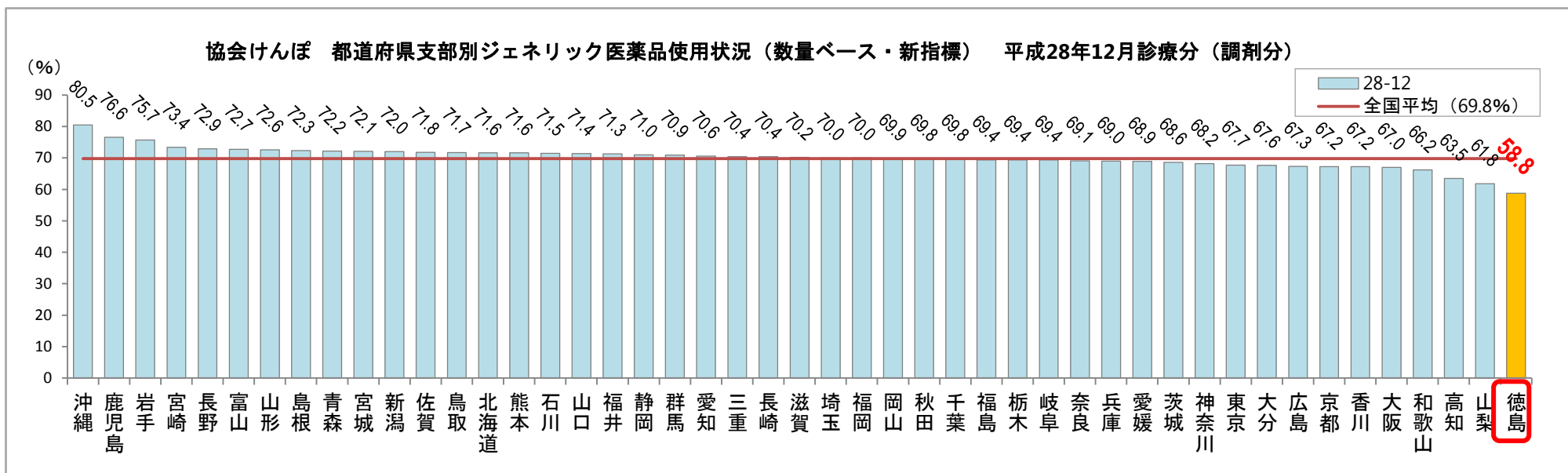


全国健康保険協会 徳島支部
協会けんぽ

平成29年5月31日

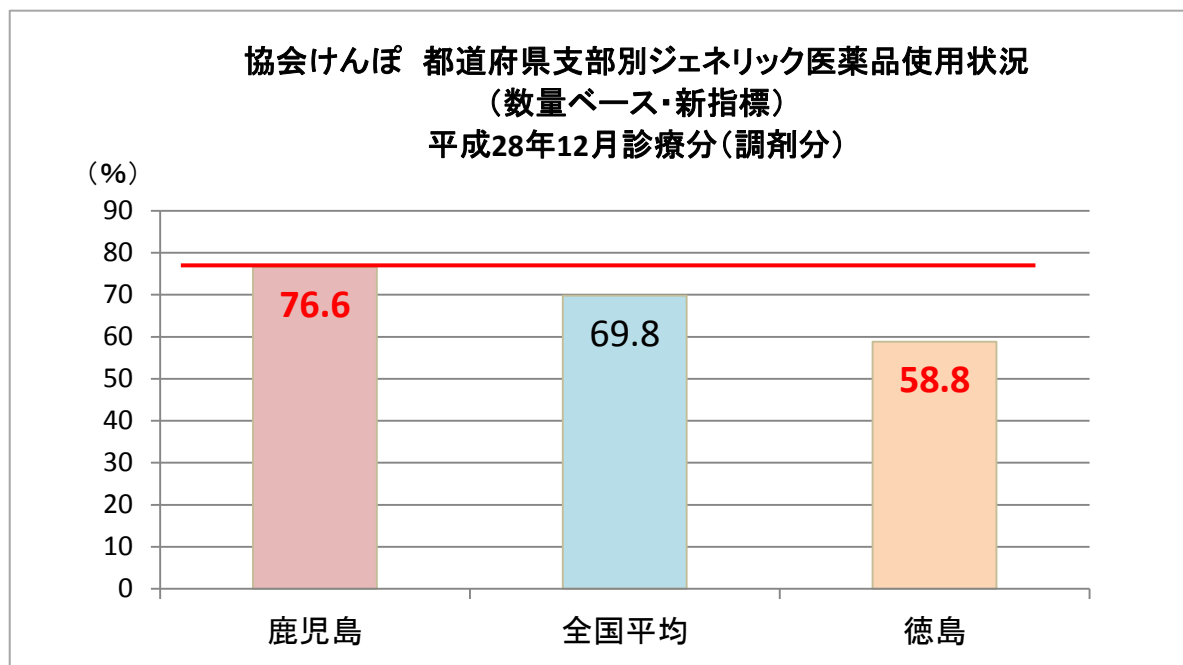
1 背景

- ◆徳島支部のジェネリック医薬品（以下、Ge医薬品と記載。）使用割合は**全国最下位**である。
[平成28年度12月診療分Ge医薬品使用割合：徳島支部58.8% 全国平均69.8%]
- ◆平成27年6月の閣議決定において、国から「ジェネリック医薬品の使用割合を平成29年央に70%以上とするとともに、平成30年度から平成32年度末までの間のなるべく早い時期に80%以上とする」という新たな数量目標が定められた。
- ◆県や医師会等関係団体とGe医薬品使用促進に向けた**連携体制が十分に整っていない**。
- ◆イベント参加者や健康保険委員に対するアンケートや徳島県内の調剤薬局経営者に対するヒアリング調査等の結果、Ge医薬品に対する各立場からの主観的な意識・意見を把握することはできていたが、**客観的データによる分析やそれに基づく使用促進に向けた対策・戦略が講じられていない**。



2 目的

- ◆ Ge医薬品使用割合が全国2位の鹿児島支部加入者と全国最下位の徳島支部加入者にGe医薬品に関するアンケートを実施し、加入者の意識や動向、医療体制の相違点等を比較し、使用割合の差は何に原因があるのかを客観的に分析する。
また、分析結果からGe医薬品使用促進に向けた課題点を追究し、対策を講じる。
- ◆ 分析結果を県や医師会等の関係団体に情報提供し、今後のGe医薬品使用促進への連携強化。
- ◆ 分析結果を医療機関・調剤薬局等へ提供し、Ge医薬品使用促進に対する理解と協力を広める。



3 方法

- ◆平成26年度協会けんぽ加入者状況に基づき、層化抽出法(比例割当)により抽出した徳島支部・鹿児島支部の加入者各3,000人に対してGe医薬品に関するアンケート調査(郵送調査法)を実施。

<抽出条件>

徳島支部加入者(県内居住者) ⇒3,000人

鹿児島支部加入者(県内居住者) ⇒3,000人

・20歳以上の任意継続含む加入者(被保険者・被扶養者)

・年齢階級別(10歳刻み)

・男女別

} 比例割当

<有効回答数>

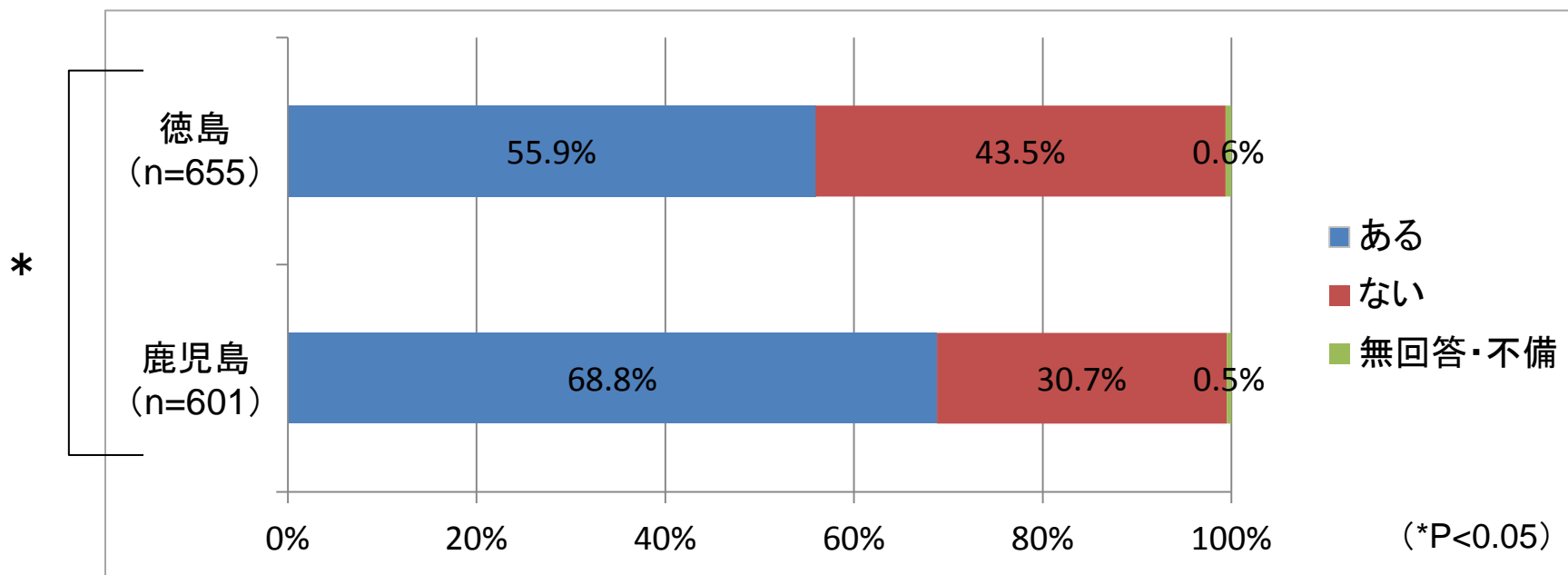
徳島支部 :655件
(21.8%)

鹿児島支部 :601件
(20.0%)

- ◆抽出したサンプルには、平成27年6月から平成28年5月受付分の調剤レセプトの有無について紐付を行い、アンケート集計時の回答区分において、医療機関受診者とそうでない者の意識差が分かるように対応。
- ◆徳島支部・鹿児島支部2群間の比較については、カイ2乗独立性の検定($P < 0.05$)、クラメル連関係数による検証を実施。

※質問項目は、過去に高知県(高知支部)が調剤薬局来訪者へ行ったGe医薬品に関するアンケートに準拠し、将来的に四国全県で分析が行えるよう考慮した。

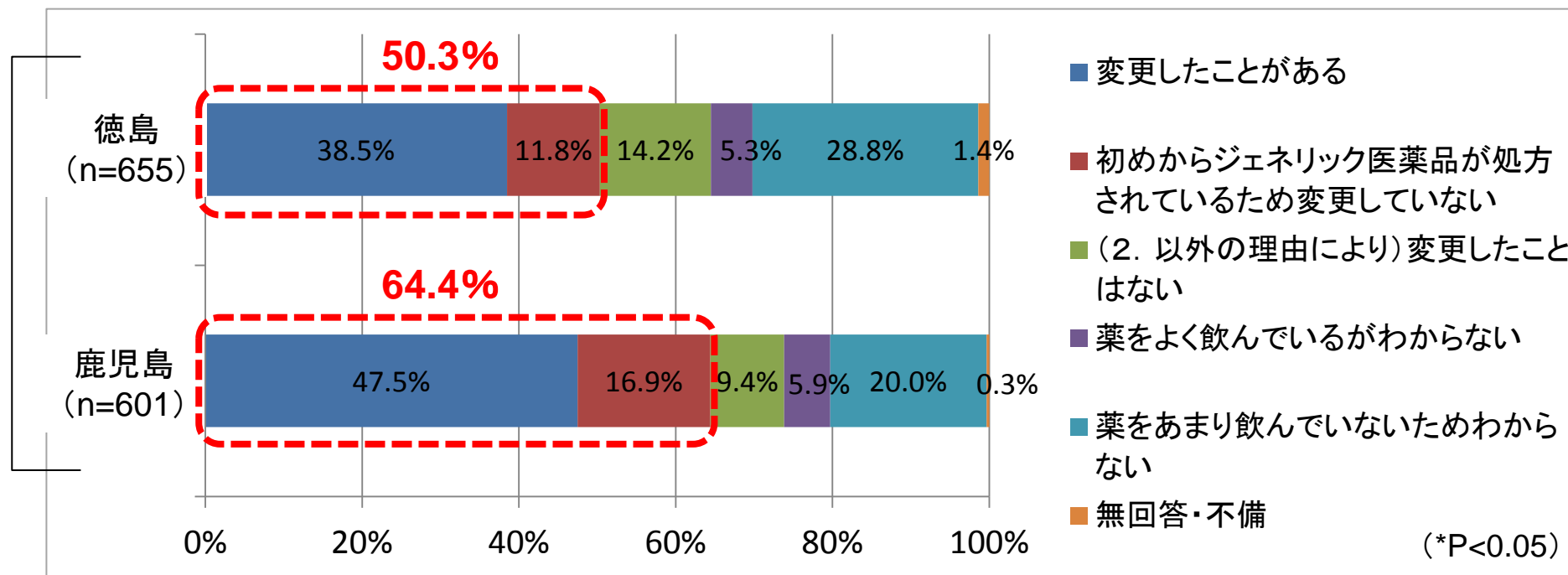
問2. 今までに病院や診療所、薬局でジェネリック医薬品について説明を受けたことがありますか。



「説明を受けたことがある」と回答した徳島支部加入者は55.9%、鹿児島支部加入者は68.8%であり、徳島支部が12.9%低い。

➤ 徳島支部加入者は、医療機関等でGe医薬品について説明を受ける機会が不足していると推察される。

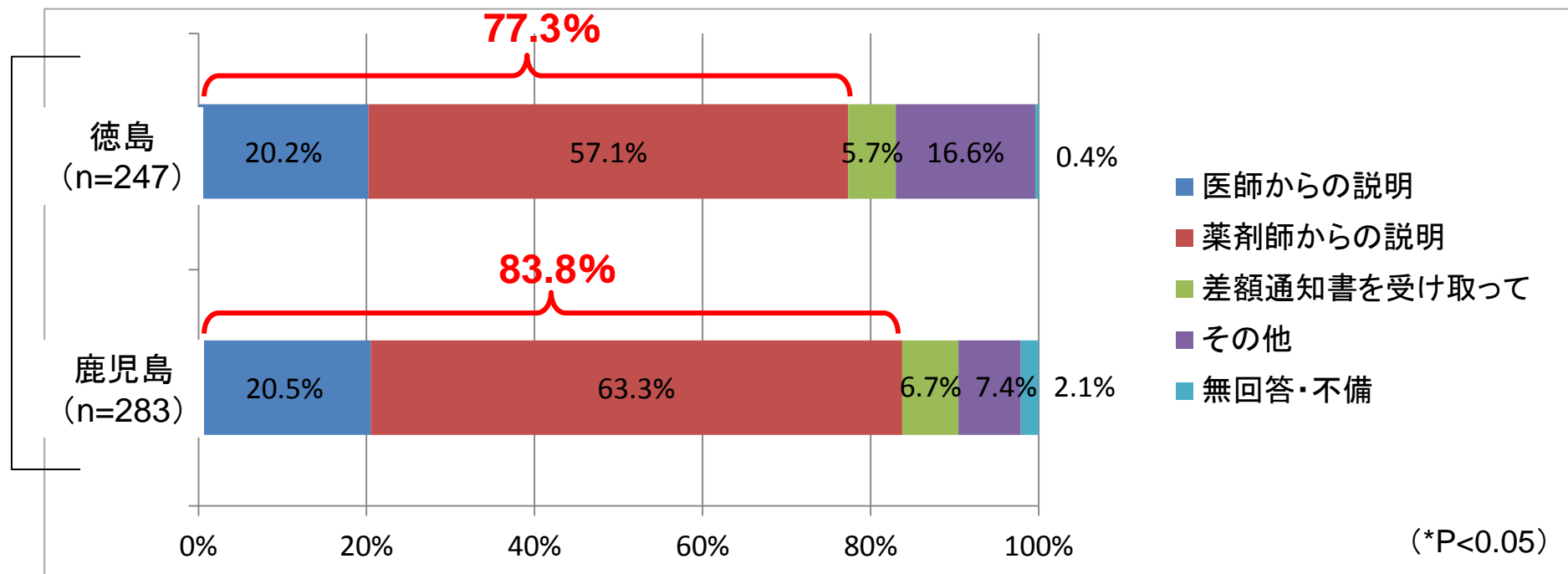
問5. 今までに先発医薬品をジェネリック医薬品へ変更したことはありますか。
(○は1つだけ)



「変更したことがある」「初めからジェネリック医薬品が処方されている」と回答した者、つまりGe医薬品を使用した(している)加入者の割合は、徳島支部で50.3%、鹿児島支部で64.4%であり、その差は14.1%であった。

本アンケート結果においても、徳島支部・鹿児島支部との使用割合の差が現れている。

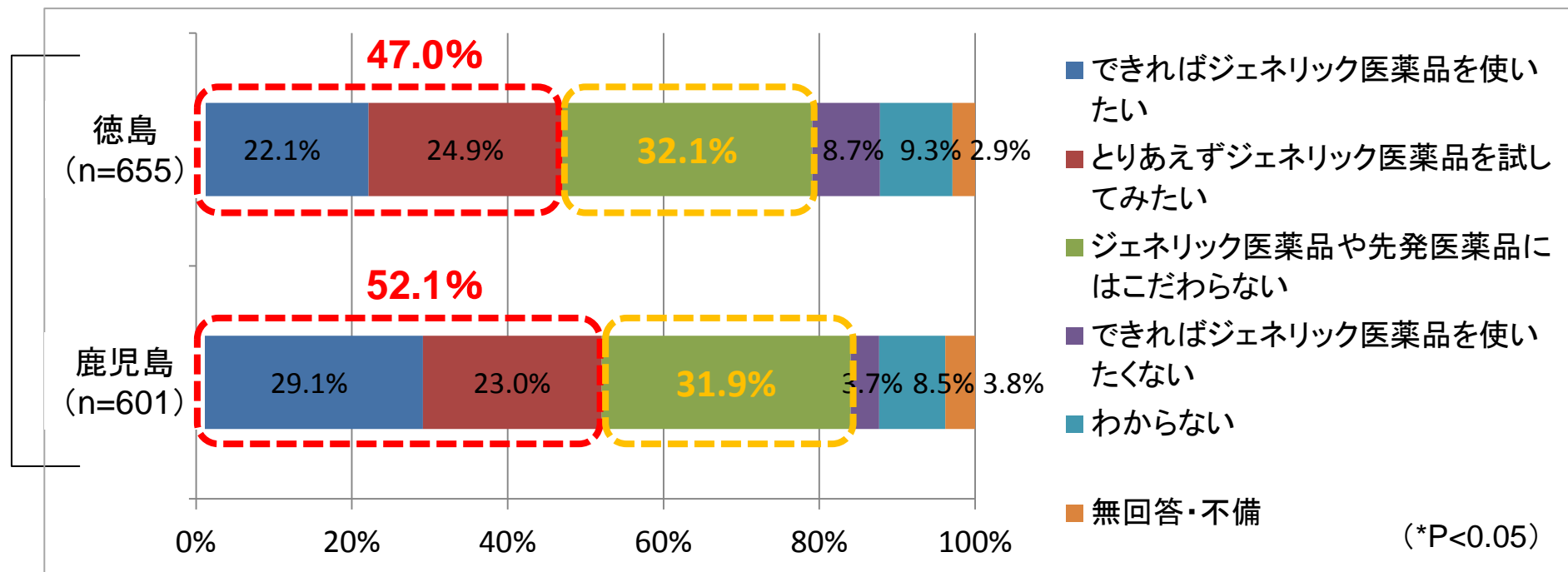
問6. 問5で「1. 変更したことがある」と答えた方におたずねします。
ジェネリック医薬品に変更したきっかけは何ですか。(〇は1つだけ)



問5において、Ge医薬品に「変更したことがある」と回答した者に、変更したきっかけを質問したところ、最も多かったのは、両支部ともに「薬剤師からの説明」であり、約6割を占める。また、次いで多かったのは「医師からの説明」であり、薬剤師・医師からの説明を合わせると、約8割を占める。

➤ 加入者がGe医薬品を選択するきっかけとしては、医療提供側からの働きかけ、特に薬剤師からのアプローチが最も重要かつ効率的であることが示された。

問10. ジェネリック医薬品の使用に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)



「できればジェネリック医薬品を使いたい」「とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい」とGe医薬品の使用を少なからず希望している回答者が、両支部とも約5割を占める。また、「ジェネリック医薬品や先発医薬品にこだわらない」とする層も、両支部ともに約3割存在している。

➤ 何かしらのきっかけがあれば、約8割の加入者がGe医薬品を選択する可能性があることが示唆された。

- ① 徳島支部加入者は、「医療機関等におけるGe医薬品に関する説明有無」について、鹿児島支部と比較して、12.9%低位にある。
また、「Ge医薬品の使用有無」についても徳島支部加入者が14.1%低位である。
- ② Ge医薬品へ変更したきっかけとしては、両支部とも「薬剤師からの説明」が最も多く、全体の約6割を占める。次いで多かったのは「医師からの説明」であり、薬剤師・医師からの説明を合わせると、約8割を占める。
- ③ Ge医薬品に対する考えとして、「使用したい」「試してみたい」「Ge医薬品・先発医薬品にこだわらない」とする回答者を合わせると、**両支部とも約8割を占める。**

①～③より

徳島支部加入者は、鹿児島支部加入者と変わらず、潜在的に約8割の者がGe医薬品を選択する可能性がある一方で、Ge医薬品に対して詳細な情報を受け取る機会が少なく、消極的姿勢が窺える。

加入者がGe医薬品を選択するきっかけとしては、薬剤師からの説明が最も重要かつ効率的であると考えられるため、調剤薬局との連携強化を実施していく必要がある。

9 徳島・鹿児島県の医療体制の比較①

①徳島県は医薬分業率が低く、診療所数が多い。

(人口10万人当たり施設数)	全国	鹿児島	徳島	
医薬分業率(%)	72.1%	72.4%	56.4%(ワースト4位)	← 約16%低い
診療所数	68.4	68.7	83.8	← 約1.2倍多い

日本医師会「JMAP(地域医療情報システム)」平成27年9月、日本薬剤師会「医薬分業進捗状況(保険調剤の動向)」平成28年2月

➤ 医薬分業率が低く(院内処方割合が高く)、また、数多く存在する診療所においては、スペースが限られており、Ge医薬品の在庫場所を確保することが難しいことから、先発医薬品が主流として使用されているのではないかと推察される。

10 徳島・鹿児島島の医療体制の比較②

②地域医療の中核を担う国立大学病院においては、両県とも、入院(DPC)でのGe医薬品使用割合は高いが、院外処方では低い。

(国立大学病院)	鹿児島	徳島
DPCレセプトGe医薬品使用割合	73.8%	76.9%
調剤レセプトGe医薬品使用割合	45.6%	40.3%

平成27年5月診療分協会けんぽデータ

また、徳島県では、同じ大学病院の門前薬局でも、県内・全国展開の違いによって使用割合の差が大きい。

徳島県内展開の調剤薬局(使用割合約40%)

徳島(大学病院門前薬局)	A	B	C	D	E	F	G (全国チェーン)
Ge医薬品使用割合	39.6%	37.4%	43.5%	32.1%	38.0%	44.2%	80.4%

平成28年4月診療分協会けんぽデータ

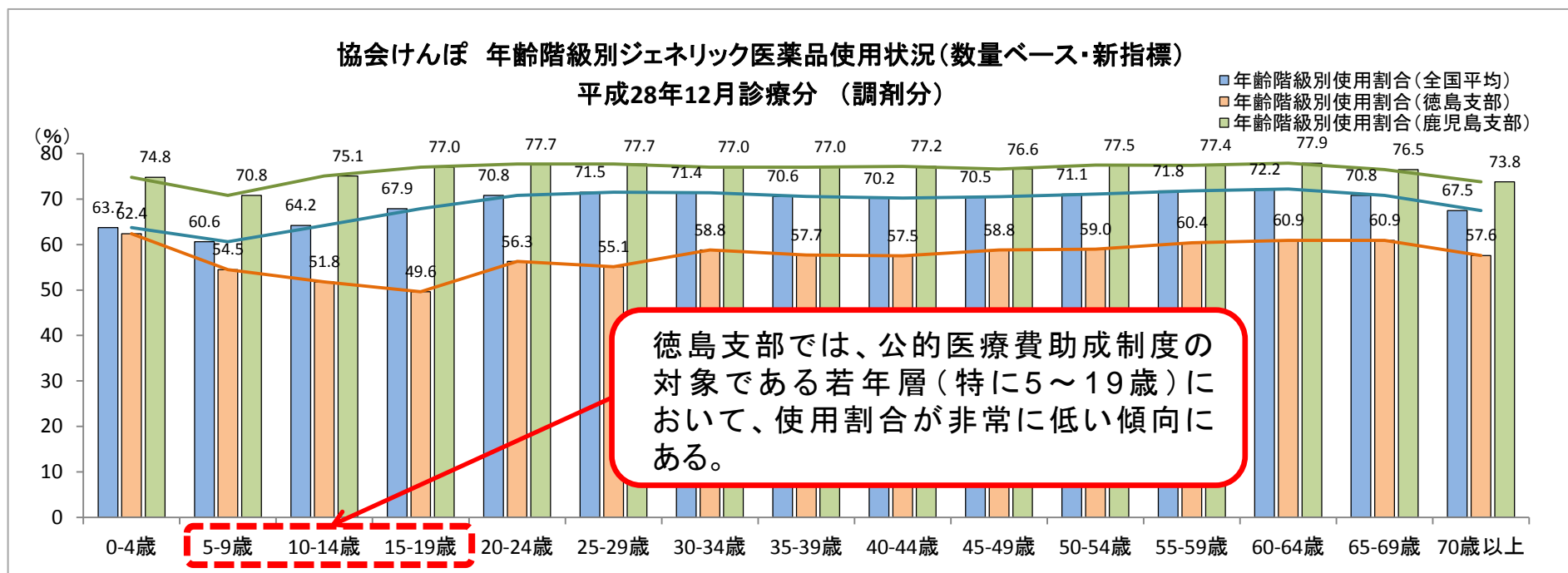
➤徳島県では、国立大学病院における医師の一般名処方の割合は0%であり、この影響も無視はできないが、一方で、Ge医薬品使用割合が80%を超える門前薬局も存在していることから、**徳島県内で展開している調剤薬局経営者の意識や卸等の供給体制の問題が潜在**していると推察される。

11 徳島・鹿児島県の医療体制の比較③

③徳島県は若年層対象の公的医療費助成制度が充実している

徳島 …… 中学修了まで: 13/24市町村 18歳まで: 11/24市町村
 ⇒ 全市町村で中学修了まで公的医療費助成制度が実施されている

鹿児島 …… 小学校就学前まで: 7/43市町村 小学校修了まで: 4/43市町村
 中学修了まで: 21/43市町村 18歳まで: 11/43市町村

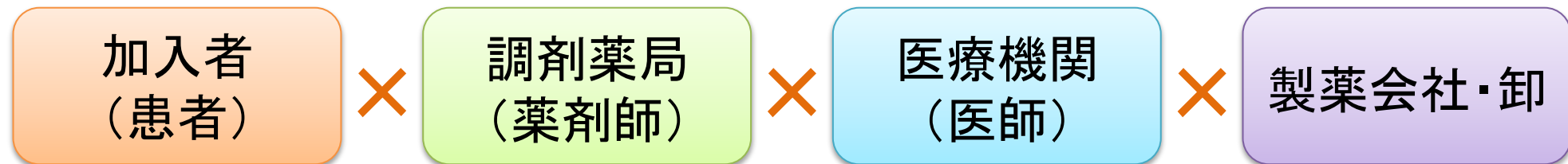


- 充実した公的医療費助成制度により、自己負担額が低く抑えられるため、Ge医薬品を使用するメリットを感じていない加入者が多いと考えられる。
- 若年層を抱える加入者の意識改革が必要なため、情報提供の在り方について検討が必要。

12 全体の考察

加入者へのアンケート結果や徳島・鹿児島島の医療体制の比較から・・・

「加入者(患者)」「調剤薬局(薬剤師)」「医療機関(医師)」「製薬会社・卸」の4者の意識改革を行い、相乗効果でGe医薬品使用の促進を行えるような対策が必要。



◎調剤薬局(薬剤師)との連携強化

アンケート結果より、加入者へのGe医薬品使用促進を行う上で、最も重要かつ効率的と考えられる「薬剤師から加入者へのアプローチ」の協力を広げる。

- 調剤薬局への訪問による協力体制づくり(Ge情報提供ツール利用)
 - 調剤薬局と加入者をつなぐツールの作成
 - ・調剤薬局の窓口に設置できる卓上フラッグ
 - ・お薬手帳カバー
- ※徳島県薬剤師会と連携して実施(予定)

◎医療機関(医師)との連携強化

- 医療機関への訪問による協力体制づくり(Ge情報提供ツール利用)

◎加入者への情報発信

- Ge医薬品使用割合が「全国最下位」であることを知ってもらい、関心を持ってもらうための広報活動の拡大
 - ・バス後方看板の設置
 - ・公用車マグネット看板の設置
 - ・徳島駅構内のデジタルサイネージ設置
 - ・映画館幕間CMの放映
 - ・納入告知書同封チラシへの広報記事掲載
 - ・セミナー開催

◎製薬会社・卸へのアプローチ(聞き取り調査等)

調剤薬局の窓口に設置できる
卓上フラッグ



バス後方看板 & 公用車
マグネット看板の設置



徳島駅構内の
デジタルサイネージ設置



- 今回、加入者へのアンケート調査が中心であったため、医師、薬剤師、製薬会社・卸といった医療提供側への調査も実施し、全体を客観的に分析していく必要がある。
- 徳島・鹿児島 of 医療体制については、現状の比較から考察を行ったが、考察した内容について検証していく必要がある。
- 今回の調査分析事業について後発医薬品適正使用協議会等で情報発信を行ったところ、県や医師会等の関係団体から、強い関心を得られた。
今後も情報提供を積極的に行い、行政や関係団体と連携した使用促進事業も展開していく必要がある。